

若杉 実: 足利出身の音楽ジャーナリスト。雑誌への寄稿、連載をはじめCDのライナーノーツを執筆。CD、DVD企画も200タイトル以上手がける。RADIO-i(愛知国際放送)、Shibuya-FMなどラジオのパーソナリティも担当していた。著書に「渋谷系」「東京レコ屋ヒストリー」「裏ブルーノート」「裏口音学」、新刊「ダンスの時代」。

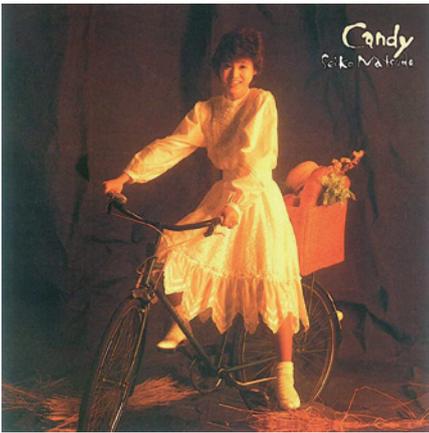
ご意見などはブログ&メールまで。  
http://wakasugim.jugem.jp/  
wakasuginoru@hotmail.com

# 若杉 実の裏口音学

表が裏で、裏が表!?

78

## 聖子の自転車



松田聖子  
『Candy』  
(CBSソニー)

「コロナがにくい」という2020年だったが、「だからなんでもやる」という裏の答えを手にすれば明日へつながる一年でもあった。それを手にした人物をすくなくともひとり知っている。デビュー40周年をむかえた花のアイドル80年組。

恒例のディナーショーでガツボリのはずだった松田聖子が、番狂わせの補填として全局総なめ。周年記念を脳裏に焼きつかせる手際の良さが圧巻だった。しかも武道館でカウントダウンまでやってるし。ひるがえて同期の近藤真彦のグスつぶりはどうしたとか。不倫ですべて台無し。ところが30年前そのマッチとの逢瀬や米俳優との不倫やらで世間をにぎわせた聖子は、根性焼きのように古傷を勲章にしてしまう。コンプライアンスということばが浸透していなかった時代とはいえ、この差はなんなのか。

時間の流れは、それゆえにおそろしい。40年も経

てばアイドルソングにも気品が帯びてくることも、代表曲「青い珊瑚礁」(1980年)を耳にし痛感させられた。特集番組にて冒頭のロングトーンが流れてきた瞬間、不覚にも目からウロコが落ち、初老の足音を聞く。

もっともあれだけのドリームチームに囲まれ、駄作をつくれというほうがむずかしいだろう。ただし初期のアルバムに一点だけ、くすんだ印象を拭えないものがある。1982年の6枚目『Candy』。顔アップの表紙がつづくなか、初めての全身写真。そういう外的要因もあるかもしれない。それでも作品の副題“ここではパロックカラー、いまあなたとティータイム”に対し、カメラマンは“自転車が不可欠”と考えたにちがいない。

わたしの青春の1ページにも“それが”不可欠だった。英国ラレー社ロードスター。高校時、退屈な通学でも革のサドルをまたいだ瞬間、目の前の風景ががらりと変わった。『Candy』を知ったのはずいぶんあとからで、ソースはアイビールックの経典『TAKE IVY』にある。どう逆立ちしたところでアイビリーガーの夕マではないが、当時そういう格好が好きで、キャンパスに乗りつける彼らの自転車が欲しいものリストに入るのはとうぜんだった。

ただし80年代中盤、日本で入手するのはほぼ不可能。できたとしても都内の輸入アンティーク店でウン十万もする。宮田の実用車で重いペダルに青春を刻むのもやむなし。そうあきらめかけたところ、近所のふるびた自転車屋の大将が年季モノを乗っているのを発見。交渉を重ね、夕方同然で譲り受けることになった。

市内を探しまわる日々はおわらず、べつの店主からはおどろきの返事をもらう。「倉庫にあるけど、あんなのほしいの?」。そのむかし販売していたが、壊れやすく売れない。ホンダの子会社が輸入していたものの、最終的には車のオマケになっていたらしい。

その後、同級生が真似して乗り出したり、いくつかの店が倉庫から引き上げいっせいに売り出したりが、あざとい友人は原宿の洋服屋に転売しボロ儲けしていた。なんでもユー・オン夫妻の手にも渡ったのだとか。「赤いスイートピー」「渚のバルコニー」「秘密の花園」など、ふたりが手がけた聖子作品はすくなくないが、同時期『Candy』だけふしぎと外れている。ただの偶然。そしてその偶然になにかを示唆させるようにも映るラレー。にじむ気品が“パロック色”に輝く。

### 松田聖子 『Seiko Matsuda 2020』 (ユニバーサル)

40周年盤。先行『Sweet Memories〜甘い記憶』は1983年の全編日本語版。37年ぶりとなった財津和夫との「風に向かう一輪の花」では、これまでとは反対に詞(聖子)が先に用意された。『Candy』について。「野ばらのエチュード」収録。細野晴臣が初参加したことでも知られている。“絵になる自転車”として撮影によく使われるが、岩渕まこと『Air Pocket』(1978年)の裏面にも使用されていた。



この度、渡良瀬通信の表紙の作品を提供いただいている、館林市出身の書家岡一舛さんが「Cafe de Jolly カフェ・ド・ジョリー」をオープンした。東武伊勢崎線の茂林寺前駅から徒歩5分の場所。人と動物の輪を大切にしてお洒落・隠れ家ドッグカフェである。300坪の庭に四季折々の美しい草木が広がるドッグランを併設。ワンちゃんと思いきり遊ぶことができる。(基本12kgの中型犬まで)

店内では絵本から出てきたような心癒される、岡さんのイラストを展示。体に優しい手ごねのパンや食事が楽しめる。日頃の疲れを癒したい……、そんな時に是非利用してほしい。



### カフェ・ド・ジョリー Cafe de Jolly

2020年12月25日(金)オープン  
★先着30名にポストカードプレゼント  
館林市堀工町1861-209(駐車場5台)  
営業時間/金・土・日曜日 11:30~16:00  
問い合わせ先・予約/TEL 070-2796-8533

E-mail cafedejolly25@gmail.com

